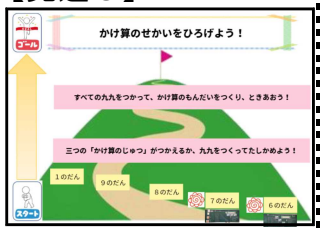
第２学年算数科「かけ算の世界を広げよう！　～かけ算（２）～」

学習指導者　井下　修一

九九を構成して、かけ算の術【分身の術（同数累加)、かけられる数を足すの術（乗数が１増えれば積が被乗数分だけ増える性質)、交換の術（交換法則)】が成り立つか確かめる活動を通して、どの段でも三つのかけ算の術が成り立つことを理解できるよう指導しました。また、自分の取り組みやすいかけ算の術から順に確かめていくという諦めずに試行錯誤する方法の習得を目指しました。

三つのかけ算の術が使えるか、８の段の九九をつくって確かめよう

【見通し】



前時の学習を振り返ることで、「かけ算の術を使って、７の段をつくることができたよ」「三つのかけ算の術が７の段でも使えたよ」などと、分かったことを明確にした。その後、単元計画や未完成の九九表に注目させることで、既習事項と未習事項を整理し、「三つのかけ算の術が使えるか、８の段の九九をつくって確かめよう」と課題を設定した。

【行動】

「三つのかけ算の術が８の段でも使えるかどうかを諦めずに確かめるには、どうしたらいいかな」と問いかけることで、「自分の取り組みやすい術から順に試す」という諦めずに試行錯誤する方法を想起させた。まず、どのかけ算の術から試すか自己決定する時間を設定し、自分で考えたり、グループ交流で交流したりしながら、８の段の九九を構成し、三つのかけ算の術が８の段でも使えるかを検証していった。その際、試したかけ算の術に印を付けさせていくことで、まだ試していない術がどれなのかを分かりやすくし、他のかけ算の術も試しやすくした。そして、学級全体で８の段の九九の答えや、８の段でも三つのかけ算の術が使えたかを確認した。その後、まだ習っていない段でも、三つのかけ算の術が成り立つかを一つずつ使ったから、最後まで取り組むことができたことを称賛した。

【振り返り】

単元を通して、１枚のカードに振り返りを記述できるようにすることで、自分の成長を実感しやすくした。また、振り返る観点を示すことで、算数に関する学びと学び方の両方で振り返ることができるようにし、本時の学びが明確になるようにした。九九表に８の段を加えることで、９の段についても三つのかけ算の術が成り立つか、九九をつくって確かめたいと次時の意欲を高められるようにした。

成果と課題	○学習して分かったことを基に、他の段ではどうかと考えていくことで、子供たちが見通しをもって取り組むことができた。また、自分の取り組みやすいものから順に取り組んでいくことで、どの子供も活動に参加することができた。 ▲三つのかけ算の術を見付けようとする目的意識をもたせる工夫が必要だった。また、分身の術が成り立つか検証する際には、実際に足し算をせずに検証している子供がいたので、検証方法について学級全体で共通理解しておく必要があった。